

主務課：予報部予報課		関係課：数値予報課、情報システム課、観測部管理課		
業績指標名 大雨警報のための雨量予測精度		単位 (比)	現況値(時点) 0.50 (平成13年)	目標値(年次) 0.57 (平成18年)
関連アウトカム目標(関連施策等) 災害による被害の軽減(台風・豪雨等に関する気象情報の充実・改善)				
<p>業績指標の解説</p> <p>関係機関に伝達され防災活動に利用されている大雨警報は、気象災害対策のための最も基本的な防災情報であり、また、その大雨警報の基礎となる雨量予測値は、土砂災害や水害対策にかかる防災情報の作成に必要な基礎的なデータとなることから、技術的レベルの改善を主眼として、雨量予測精度を業績指標とする。</p> <p>雨量予測精度は、降水短時間予報で予測する雨量について、3時間先までの予測値と実測値(ともに20km四方の範囲で平均した値)を比較した値とし、具体的には、その予測値と実測値の合計が3時間で30mm以上の雨量となった場合の両者の比(大きな値を分母とする)の平均値を用いることとする。(平成14年7月定義)</p> <p>なお、防災情報としての大雨警報の有効性の観点からは、気象災害の的確な予想、警報のタイミング、対象となる地域の絞込みなどの大雨警報や関連する情報を総合的に判断して、防災関係機関等が適切な対応ができたかどうか重要であり、当面は、大雨警報の満足度に関する指標を別途設定して把握することとしている。また、地域の絞込みについては、警報を発表する地域単位(二次細分予報区)の設定に取り組むこととする。</p>				
<p>目標設定の考え方(測定様式では達成状況に関する分析・コメント)</p> <p>関係機関の雨量データの活用促進、解析手法の改良による雨量の実況解析能力の向上、降水短時間予報手法の改良、数値予報モデルの改良等により、18年までに雨量予測精度を14%改善することを目標とする。これによって、より有効な大雨警報としていく。</p>				
(参考)過去の実績値				(備考)
H9	H10	H11	H12	H13
				0.50
				13年から測定